

## 令和3年度 第2回大山崎町社会教育委員会議の報告

- I 日 時 : 令和3年10月13日(水) 午前10時~同11時
- II 場 所 : 大山崎町立中央公民館 別館3階 大研修室
- III 出席者 : 14名
- 出席委員(5名)
  - 事務局(9名)
- 教育長・教育次長・学校教育課長・生涯学習課長・歴史資料館長・文化芸術係主幹・公民館長・生涯学習・スポーツ振興係員2名
- IV 会議名 : 令和3年度第2回大山崎町社会教育委員会議
- V 内 容 : 以下のとおり

### 【要点】

会議は円滑に執行された。  
傍聴希望者なし。

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| 1 開 会                 | 事務局         |
| 2 教育長あいさつ             | 教育長         |
| 3 委員紹介<br>事務局職員紹介     | 事務局         |
| 4 委員長あいさつ<br>副委員長あいさつ | 委員長<br>副委員長 |

※ 当日配付資料の確認(別紙参照)

※ 大山崎町社会教育委員会議運営規則により本会議の成立を宣言 事務局

### 5 議 題

※ これ以降の進行は委員長が担当

(1) 令和3年度社会教育委員会議関係事業報告について  
令和3年度町社会教育委員に関係する内容と実績を報告

事務局

※ 質疑応答

<京都府社会教育委員連絡協議会総会について>

委員 京都府北部の総合教育センターと、伏見の総合教育センターの2カ所に分かれたが、北部の様子(映像)がわかりにくかった。カメラとライトの間に人が立つので、逆光で人の影しか映らないという状況であった。誰がしゃべっておられるのかよくわからない。声は鮮明に聞こえるのですが、そういう点ではわかりにくいと感じた。

ただ、今までであれば北部から京都市内に行く必要があったが、今回、そういった時間的ロスがなかったところは良かったのではないか。

委員 水野先生から、ものづくりをされているお話について聞かせていただいた。桂イオンでもされておられるということで、機会があったら覗いてみたいと思う。

委員 海に流れ着いた廃品などを利用してものづくりを行うという活動自体は、ユニークに思う。時間的余裕や、そういったものを作ったり見たりされる人がおられるということに驚いた。生活で精いっぱい我々から見て、そういう余裕を持っておられるというのは、うらやましい。観点は違ったが、参考になった。

委員 日本海側の漂着物にはハングル語や中国語で書かれた漂着物が多く、被害を訴えているが、逆に、インドネシアやフィリピンでは、日本語の漂着物がたくさん流れ着いている。アメリカの西海岸にも大量に流れ着いている。プラスチックは腐らないため、いつまでも海洋をグルグル回って、ある場所にたくさん集積する。長い年月のうちに少しずつ壊れたり剥がれて小さくなり、いわゆるマイクロプラスチックになっていく。

委員 アートはハートだと言われておられた。ものづくりはアート、心ということであった。

委員 ごみとして消え去る物を利用するという点については、なかなかおもしろいと思う。

<京都府社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会について>

委員 福知山の先生で、丹波、丹後のお話をされた。綾部市の古屋集落は、人口が3人で、女性ばかり平均90歳だが、その3人が、元気にやっているという。人口は3人だが、ボランティアや様々な業者など、トチの実のおもちを作ったりクッキーを作ったり、そういった仕事の手伝いに行く、そういった人たちを合わせると、年間約3千人がその場所に移動しており、その人たちを「関係人口」、初めて聞いたが、そういう風に言うということであった。そして、自分たちの村を守る、そういったお話をされていた。若い先生であったが、色々お話していただいた。丹後のことであるが、実際住んでいる方は何万人だが、本籍としている方もたくさんおり、地域を愛しているために本籍地を変えない方がおられるというようなことをおっしゃっていた。

委員 京都府で名指しされた消滅可能都市は、26市町村のうち13という。委員がお話された「関係人口」については、定住の人口でもない、観光に来る交流の人口でもない、定期的にその地点を訪れる、そういう考えでのお話をされた。

私は、高校生と保護者を対象にした調査の結果を興味深く見た。あれがない、これがない、と地域の課題ばかりを見ると、地域に誇りを持ってない。もっと地域を誇りに思えるような学習が大切だとおっしゃっていた。地域の課題ばかり見ていると、子どもたちの目は外に向いてしまう。その通りに思う。ただし、都会に住む便利や地方における心配などを、親たちが子どもに話す必要もあるということも話されていた。

委員 地域を愛するというのは、どれだけ基礎の部分の部分を大事にするかということで、親御さんが子どもに経験や地域とのかかわりを大事にすることを教えることが一番の近道だと力強くおっしゃっていたことが頭に残っている。また、先生自身も府内で育ったということをお話されていて、印象深かった。

それから、京都府で住みよい町として長岡京市が2位だったかと。乙訓地域がグラフにエントリーされていて嬉しく思う。

委員 講演の後、意見交流があった。最近では、コロナのため講演後すぐに終了することが多くなっているが、この時は、グループごとに分かれて意見交流を行った。ただ、間に透明の板を置いていたため、相手が目の前にいても声が聞こえず、皆立ち上がって話し、そのうち、透明のついたてを外して話し出すところも多かった。それだけ話が盛り上がっていたということもあるように思う。

意見交流のお題で、自分の地域で関係人口を活用した地域づくりが可能となるかということをお話をするように言われ、たくさんの意見が出た。私のグループは、中丹、京丹後、綾部の方の4人で、いずれも人口減少の地域であったが、高校生の頃に非常にやんちゃだった子が地元に戻ってくる、という意見が多くあった。爪痕を残しているから帰ってくるのでは、と言う方もおられたが、高校生が自分達で動ける場所を、もっと作ってあげたら活動できるのでは、という話が出ていた。最後にまとめて、鹿児島県で、自治会長を高校生に任せている地域があるという話をされた。そうすることで、非常に活発化しているということであった。

委員 いつも京都府の会議なので様々な地域から参加があるが、今回、初めて京都市教育委員会の生涯学習課の方が参加された。京都市から参加されたのですかと尋ねると、京都府を参考にしたいとのことでした。京都府の会議には長く参加させていただいているが、初めてのことで驚いた。

◎ 各委員が承認

(2) 令和3年度生涯学習課関係事業報告について

「生涯学習・スポーツ振興係」、「町体育館」、「文化芸術係」、「中央公民館」、「歴史資料館」、の順に実績を報告  
事務局

<町体育館事業報告について>

委員 マーチングの利用が多いようである。フェンシングならわかるが、大山崎町と何か関係があるのか。

事務局 町の体育館の立地状況として、周りに民家がなく、大きな音を出しても苦情がないため近年利用が増えている。最近では、府内におけるマーチングの聖地のように好評いただいている。

委員 マーチングの利用が1番多いようである。

委員 空いているので、利用が次々入るのであろう。国道も近い。

<歴史資料館事業報告について>

委員 19ページ写真は、見たことがあるように思う。いつ頃のものであるか。

事務局 貯蓄を促すポスターであるが、残念ながら、正確な年代はわからない。大政翼賛会ができた昭和15年(1940)以降の内容で、期間的には5年くらいに思われる。明確な年代はわからない。

委員 どなたかがお持ちなのか。

事務局 以前、大山崎村長をされていた故川崎末五郎の自宅から見つかったものである。

委員 良く残っていたと思う。ガラスの看板を写真好きの父親がよく現像していた。こんな大きなものが、よく残っていたものである。劣化していないのか。

事務局 20枚程残っているが、一部、一つだけ割れているが、それ以外は非常にきれいな状態で残っていて、現像したところ非常に精度の高い状況で、A4程の大きさだが、引き延ばしても耐えうる内容であった。18ページ下にあるように、かなり大きく拡大したが、それぞれの顔の表情もよく出ており、非常に精度のよい写真である。

委員 展示に説明があったことだろうと思うが、写真そのものの説明のみか。

事務局 説明は、写真と看板の両方についてあるが、基本的には、写真の被写体になっている方々がどのような方々かということ推定させていただいた。加賀正太郎の

若いころの交友関係なども、追いかけることができるような展示をさせていただいた。一般によく名前が知られた方、あるいは、その方のその御子息など、インターネット上でも公開されているような、よく知られた方を紹介させていただいている。

委員 昭和の初めの頃の写真か。

事務局 昭和に入る直前の、大正の写真が大半である。山荘美術館が出来る前の、昭和3年以前の様子で、内容的にも大正年間の頃の人間関係というのが写っている。神戸の居留地におられる外国人の方もたくさん写っている。加賀の交友関係の広さがうかがえる。

委員 残念ながら見ておらず、惜しいことをした。当時としては、大変高価な写真なので、よほど財力があつたのでしょうか。

◎ 各委員が承認

(3) 令和3年度大山崎町社会教育関係団体補助金について

事務局

◎ 各委員が承認

※ これ以降の進行は事務局が担当

6 その他（連絡事項）

文化のつどいについて

事務局

7 閉会あいさつ

副委員長